

350万年前  
ミエゾウが歩いていた!?

## 新県立博物館建設地から化石が出た!

建設地には東海層群の亀山層という地層が分布しています。三重県庁の地下と続いている地層で、約350万年前の新生代第三紀鮮新世という時代のもです。  
ここではミエゾウの足跡が45個確認されたのはじめ、多くの化石が産出しました。

### ミエゾウが生息した時代の環境

平成22年、建設地の造成工事によって現われた地層について調査研究し、博物館活動に活かそうと、『新県立博物館建設地地層・化石調査委員会』が設置されました。現地調査は2回実施され、学芸員を中心に地質学・古生物学などの専門家や、三重県立博物館サポートスタッフ（現在は三重県総合博物館ミュージアム・パートナーへ移行）や学生などが参加した大規模な調査が行われました。

調査の結果、植物や昆虫、哺乳類、魚類や貝類などの約600点の化石が見つかりました。採取した化石のうち、シカの頭骨、ワニやスッポンなどの貴重な哺乳類の化石や、頭部から両翅までそろった保存状態のよいツマキレオオミズスマシ（水生昆虫）



「子ども化石調査体験&現地見学会」。子どもたちをはじめとした県民のみなさんも調査に参加しました。

トレンチ（調査用の溝）を掘り、化石層の分布や地層の堆積状況などを調査しました。

### 博物館建設地から採取した化石

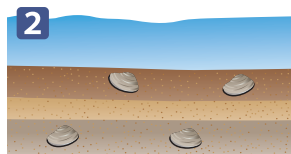


①シカの角 ②ツマキレオオミズスマシ ③ワニの鱗骨（背中にある骨）

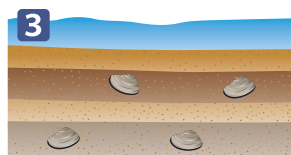


④琥珀（樹脂の化石）  
⑤魚の全身骨格※石川浩平さん採取  
⑥シカの下顎骨※北村公行さん採取

### 化石ができるまで



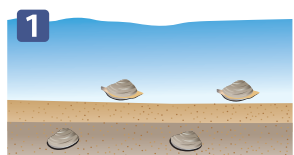
骨や殻などが残り、その上に砂や泥などの堆積物が積もります。



さらに新しい堆積物が積もることで、地層が形成され化石ができます。

### 化石とは

過去の生物やその生物の生活のあとが自然に埋もれて残ったものをいいます。



生物が死んで海や川、湖の底に沈みます。

中川さん「さまざまな種類の化石が出てきたことは、その時代の環境を復元するうえで大変貴重な資料になります。」  
今回の調査によって得られた資料やデータの分析から、ミエゾウがどのような環境で生息していたのか今後、明らかにされていくかもしれません。

の化石も見つかっています。亜熱帯や熱帯の気候に生息する生きものなどが含まれていることから、350万年前の建設地の環境は、現在の中国南部や東南アジアなどのように暖かったということがわかりました。  
また建設地では、ひとつの場所から多くの数と種類の化石が見つかったという点でも珍しいことであるといわれています。